

2009年10月29日
東日本旅客鉄道株式会社

UIC（国際鉄道連合）アジア環境会議の開催について

東日本旅客鉄道株式会社（以下、JR東日本）は、UIC（国際鉄道連合）とともに、2009年11月5日・6日の2日間、「UICアジア環境会議」を開催いたします。詳細については、以下のとおりです。

1. 開催日

2009年11月5日（木）・6日（金）

2. 参加者数

UIC会員を中心に約50名

3. 開催場所

京都国際会館 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池 075-705-1234

4. 主催者

UIC(国際鉄道連合) 共催：JR東日本、協力：JR西日本

5. プログラム

期 日	時 間	内 容
11月5日（木）	午前	オープニング セッション1：鉄道事業者等の取組み パート 鉄道事業者
	午後	パート 鉄道研究機関 Joint Message のとりまとめ
11月6日（金）	午前	セッション2：鉄道への期待 セッション3：Train to Copenhagen キャンペーンの紹介
	午後	テクニカルビジット（環境にやさしい鉄道施設等の視察）

6. UICアジア環境会議について

UICは、2009年12月にコペンハーゲン（デンマーク）で国連気候変動枠組条約第15回締約国会議（COP15）が開催されることを受けて、現行の枠組みを定めた「京都議定書」の誕生の地である京都において、UICアジア環境会議を開催することとしました。

UICは、COP15に向けて、地球環境問題を解決するために鉄道が担うべき役割を世界的にアピールすることを目的として、国連環境計画（UNEP）と世界自然保護基金（WWF）の協力を得て、「Train to Copenhagen」キャンペーンを展開します。今回の会議は、このキャンペーンのキックオフイベントとして位置付けられています。

会議には、UIC会員である国内外の鉄道事業者及び鉄道研究機関が集まり、それぞれが取り組んでいるCO2排出量削減や省エネに向けた施策・研究開発、鉄道の環境優位性を広く理解してもらうための広報活動などについて意見交換を行い、「Joint Message」を取りまとめる予定です。

「Joint Message」は、ロシア鉄道がシベリア鉄道経由でハバロフスク（11月21日発）からモスクワ（12月1日着）まで運行する特別列車と、12月5日に欧州地域のUIC会員がブリュッセル（ベルギー）からコペンハーゲンまで共同運行する「Climate Express（気候列車）」に乗り乗るUIC本部スタッフに託して、COP15の会場まで届けられ、COP15の参加者に伝えられることになっています。

【参考】 UIC (Union Internationale Des Chemins De Fer)

- (1) 1922年に設立された世界最大の鉄道国際機関で、パリに本部がある。会員相互間の協力を推進し、世界レベルで鉄道を発展させていくための活動を行うことが目的である。
- (2) 2009年1月1日現在の会員数は、200(正会員82、準会員83、賛助会員35)で、主に各国の中・長距離輸送を担う国鉄又は国鉄から民営化された鉄道会社が会員となっている。
- (3) 現在、JR東日本取締役副会長の石田義雄がUIC会長を務めている。



UIC アジア環境会議
- 京都からコペンハーゲンへのメッセージ -

2009年11月5 - 6日
京都（日本）



はじめに

2009年12月7～18日にデンマーク・コペンハーゲンで開催される国連環境会議へ至る道筋の一環として、UICは京都で環境会議を開催します。世界各国の鉄道にとって、これまで環境分野でどのような施策を実行し、より持続発展可能な社会へどのように貢献してきたかを示す絶好の機会となるでしょう。

この会議の開催地として、京都以上の場所はありません。京都は、最初の世界的な気候変動についての合意がなされた場所であり、また日本がその伝統・文化・環境を大切にしていることを象徴的にあらわしている都市だからです。鉄道が環境にやさしい交通手段であり、社会の発展を支えることを示すメッセージを発するのに最適の地でしょう。

11月5・6日に開催されるUIC環境会議は、UICアジア地域が主宰し、UIC欧州地域も協力します。鉄道の現在及び将来の環境への取組みの発表、相互理解の促進、そして共同メッセージの採択のための場を提供します。これにより鉄道は、効率の良い交通手段としての地位をさらに向上させることになるでしょう。

この会議の参加者は、12月の国連環境会議へと引き継がれて行く貴重な機会に、その一員として携わることができます。

この会議は、UIC欧州地域が主宰する「コペンハーゲン行きの気候列車」や、ロシア鉄道がアジア・欧州間で運行する特別列車とも共同歩調を取ります。環境面における、京都とコペンハーゲンとの連携や、アジアと欧州の鉄道会社の協力関係を確立することになります。



第1日目 - 2009年11月5日(木)

開会セッション (9:30-10:15)

9:30- 9:45 UIC 会長 歓迎スピーチ
9:45-10:00 UIC アジア地域議長 歓迎スピーチ
10:00-10:15 日本国 国土交通省 歓迎スピーチ

石田 義雄 JR 東日本副会長
ホー・ジュン・ヨン 韓国鉄道公社社長
米澤 朗 大臣官房技術審議官(鉄道局)

セッション 1 : 鉄道会社等の取り組み

第1部 (10:15-13:30): エネルギー・マネジメント

10:15-10:30 UIC の環境問題に対する取り組み
10:30-10:50 より良い未来に向けたグリーンエコノミー・イニシアチブ

UIC 理事長 ジャン・ピエール・ルビノー
国連環境計画 プロジェクトリーダー
フレイ・シェング

コーヒーブレイク 10:50 - 11:10

11:10-11:30 ドイツ鉄道の展望とイニシアチブ
11:30-11:50 タリス社の展望とイニシアチブ
11:50-12:10 韓国鉄道公社の環境政策及び現在の取り組み
12:10-12:30 JR 西日本の省エネルギーに向けた取り組み
12:30-12:50 地球環境問題とモーダルシフトへの取り組み
12:50-13:10 JR 九州の展望とイニシアチブ
13:10-13:30 地球温暖化への JR 東日本の取り組み

ドイツ鉄道 環境部長
ヨアヒム・ケトナー
タリス社 シニアアドバイザー
エリック・コールマン
韓国鉄道公社 副部長
ジェーシック・ファング
JR 西日本 技術理事 吉江 則彦
JR 貨物 経営管理部 担当部長 尾本 和彦
JR 九州 運輸部 担当課長 森光 毅
JR 東日本 経営企画部 次長 嶋 誠治

昼食 13:30-14:50

第2部 (14:50-17:30): エネルギー調査研究

14:50-15:10 UIC 欧州地域「レールエネルギープロジェクト」について
15:10-15:30 韓国鉄道公社の炭素排出管理とその削減
15:30-15:50 鉄道総研における省エネルギー研究開発の概要
15:50-16:10 電気二重層キャパシタを適用した地上設備型電力貯蔵装置の直流電気鉄道における検証試験

UIC 環境コーディネーター
ヘニング・シュワルツ
韓国鉄道技術研究所 主席研究員
ジャーヨン・リー
鉄道総研 車両制御技術研究部 主管研究員
秦 広
鉄道総研 電力技術研究部 副主任研究員
小西 武史

コーヒーブレイク 16:10-16:30

16:30-16:50 JR 東日本におけるハイブリッド車両の開発
16:50-17:10 新たな可能性 インド国鉄のバイオ燃料
17:10-17:30 新たな可能性 ロシア鉄道のガス機関車

JR 東日本研究開発センター 環境技術研究所長
真保 光男
UIC ニューデリー事務所代表(インド国鉄)
ムクル・マチュール
ロシア鉄道研究所 軌道・車両課長
アンドレイ・ザルチェイスキ

第3部 (17:30-18:00): 会議参加者による共同メッセージの確認と採択

UIC 会長、UIC 理事長、会議参加者による京都からコペンハーゲンへの共同メッセージの署名

第2日目 2009年11月6日(金)

セッション2: 鉄道への期待

09:30-09:50 UIC 環境プラットフォームの活動と目標	UIC 環境プラットフォーム 議長 (ドイツ鉄道 環境部長) ヨアヒム・ケトナー
09:50-10:10 将来の低炭素輸送における鉄道の役割	UIC 環境コーディネーター ヘニング・シュワルツ
10:10-10:30 COP15 の重要性	国連環境計画 (発表者未定)
10:30-10:50 2012年合意以降の持続的発展への挑戦	ブリッジング・ザ・ギャップ・イニシアチブ ホルガ・ダクマン

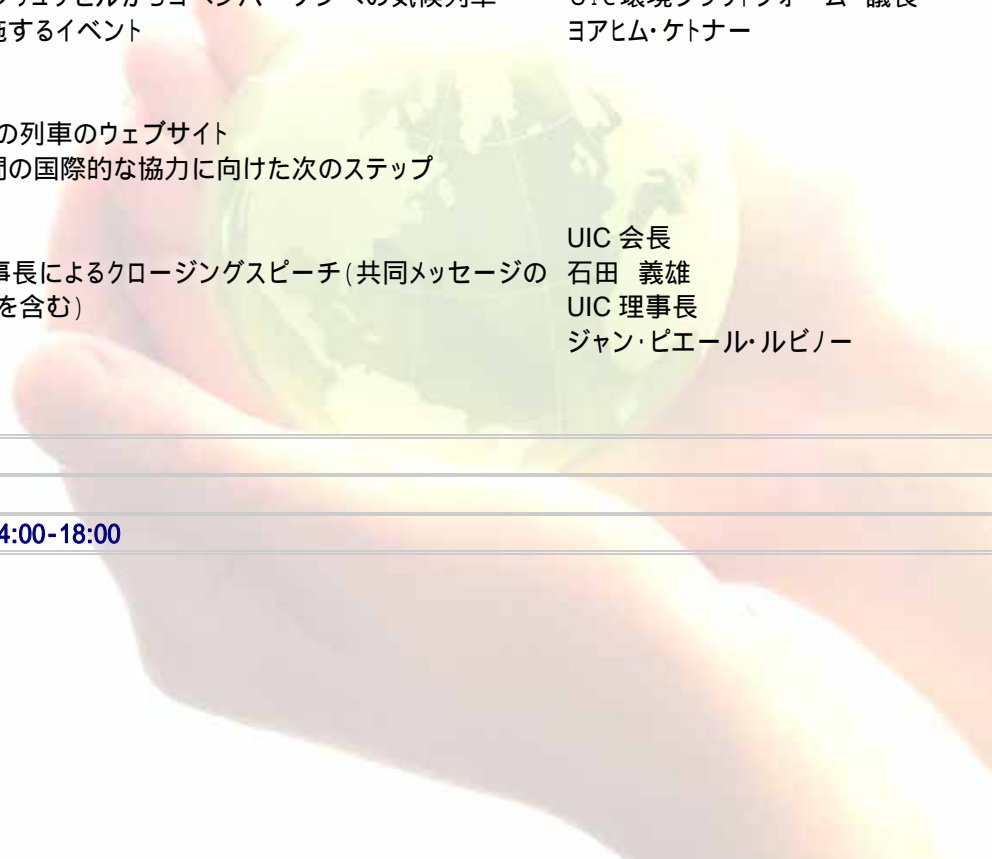
コーヒーブレイク 10:50-11:10

セッション3 コペンハーゲンへの列車の紹介

11:10-12:10 - 京都からコペンハーゲンへの象徴的な列車の旅 - 12月5日運行のブリュッセルからコペンハーゲンへの気候列車 - 気候列車内で実施するイベント - 国連との協調 - WWFとの協調 - コペンハーゲンへの列車のウェブサイト - 世界の鉄道会社間の国際的な協力に向けた次のステップ	UIC 理事長 ジャン・ピエール・ルビノー、 UIC 環境プラットフォーム 議長 ヨアヒム・ケトナー
12:10-12:40 UIC 会長とUIC理事長によるクロージングスピーチ(共同メッセージの 受け渡しセレモニーを含む)	UIC 会長 石田 義雄 UIC 理事長 ジャン・ピエール・ルビノー

昼食 12:40-14:00

テクニカルビジット 14:00-18:00



セミナー会場

国立京都国際会館 (ICC Kyoto)
〒606-0001 京都府京都市左京区宝ヶ池
Tel: 075-705-1234 Fax:075-705-1100
詳細は左記参照: <http://www.icckyo.or.jp>

アクセス

